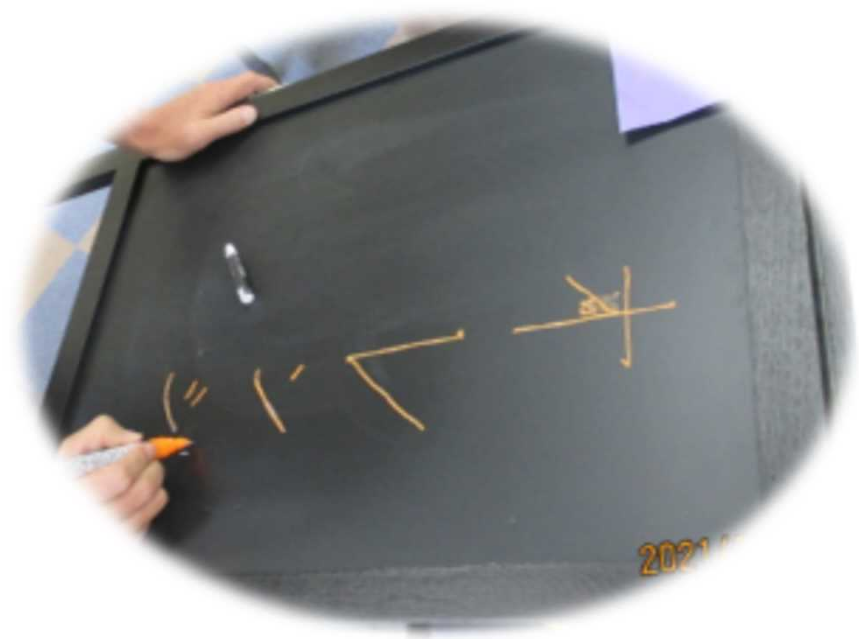


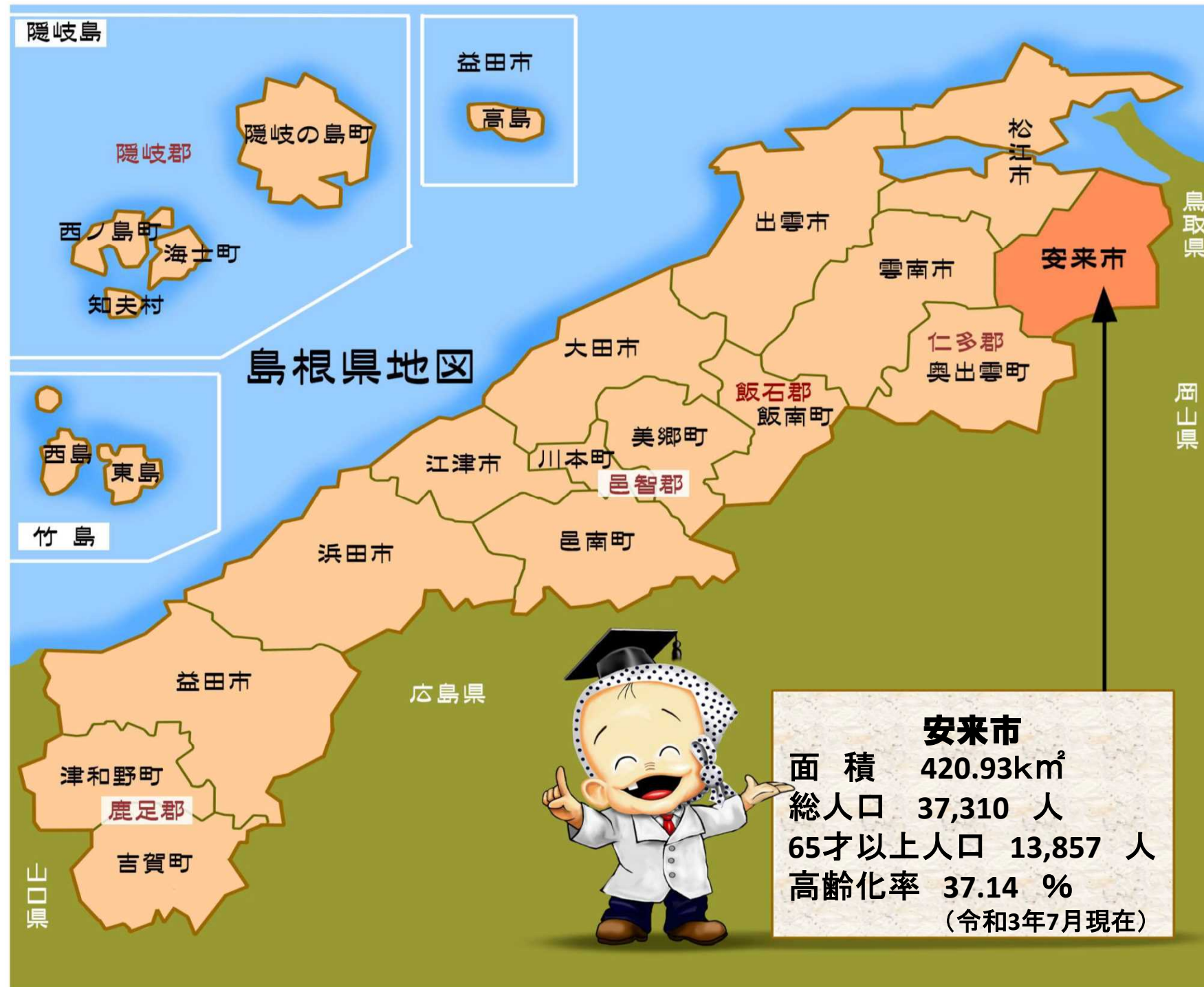
認知症地域支援推進員の活動について

～当事者主体の活動支援～



安来市地域包括支援センター
認知症地域支援推進員 皿海 弥生





隠岐島

益田市

高島

隠岐郡

隠岐の島町

西ノ島町

海士町

知夫村

島根県地図

大田市

出雲市

松江市

雲南市

安来市

鳥取県

仁多郡

奥出雲町

飯石郡

飯南町

岡山県

西島

東島

竹島

江津市

川本町

美郷町

邑智郡

浜田市

邑南町

益田市

広島県

津和野町

鹿足郡

吉賀町

山口県



安来市地域包括支援センター



推進員 推進員



安来市地域包括支援センター
(やすぎサブセンター)



推進員 推進員



安来市地域包括支援センター
(はくたサブセンター)



推進員 推進員 推進員

日常生活圏域 3カ所
 地域包括支援センター 3カ所
 (安来市社会福祉協議会 委託)
 在宅介護支援センター 3カ所
 地域型認知症疾患医療センター 1カ所

安来市における認知症地域支援推進員の役割

認知症の人にやさしい安来づくり

認知症への
理解を深める

地域で見守る
体制づくり

関係機関の
連携

本人・家族が
気軽に出かけら
れる場所づくり

本人・家族へ
の相談支援



安来市は島根県内でもっとも多くの認知症地域支援推進員を配置しています

本日のお話

1. 若年性実態調査の取り組み
2. オレンジカフェ、本人交流会の開催
3. 認知症予防への取り組み
4. まとめ

本日のお話

1. 若年性実態調査の取り組み

2. オレンジカフェ、本人交流会の開催

3. 認知症予防への取り組み

4. まとめ

安来市内の若年性認知症実態調査

一次調査

【調査期間】 平成30年8月10日～平成30年9月28日

- 【対象】
- ① 安来市内の全医療機関
 - ② 安来市内の保健・福祉施設
 - ③ 米子市内の一部医療機関

生活圏域が米子市寄りであるため

【内容】 平成30年3月31日までに支援された若年認知症の方の数の把握および二次調査(ご本人・家族を対象とした生活実態調査)の協力者の有無

【回収率】 100% (有効回答率も100%)

安来市内の若年性認知症実態調査

二次調査

【調査期間】 平成30年11月6日～平成31年1月31日

【対象】 一次調査の中で、面談のご許可がいただけた
ご本人及びご家族

【内容】 現在の生活状況やこれからの暮らし方について

安来市内の若年性認知症実態調査

二次調査の聴き取りより見えてきた結果

きっかけ

- 就労していたが、計算などができなくなり、退職。当初鬱病と診断を受けていたが、別の病院で若年性認知症と診断された
- 脳出血の後遺症として

安心できたこと

- 病院、認知症の人と家族の会 施設で色々支援してもらえた
- ローンの支払いに困ったが、金融機関の人に免除の申請方法を聞き、助かった

困ったこと

- **こんな病気にかかっているのは、自分（自分の家）だけだ**と思っていた。病院は受診していたが、どんなサービスがあり、**どこに相談したら良いかわからなかった**
- 身体障がい者や高齢者ではないため、市の送迎サービスの支援の対象からも外れてしまう
- 現在は病院で入院している。経済的にも本人がいた頃よりも収入が少なく、**まだ学生の子どもがあり大変**

安来市内の若年性認知症実態調査

これから

- 居場所があると嬉しい。散歩に出かけた時に気軽に立ち寄れる場所が欲しい
- 同じ病気を持っている人が相談できる場所が欲しい
- 具体的な情報をわかりやすく教えてもらえる場所があると助かる
- 施設入所も考えるが、(介護者である)自分の身体が続く限り、在宅で介護をしていきたい

安来市内の若年性認知症実態調査

安来市における若年性認知症のご本人及びご家族が、
安心して暮らせるまちづくりのために・・・

① 早期発見 早期のかかわりが必要

② 居場所の確保

本人や家族が集い、相談ができる場所
楽しく、安心して過ごせる場所

③ ご本人、ご家族に情報提供をしていける体制づくり

④ 多職種による情報共有の場づくり

本日のお話

1. 若年性実態調査の取り組み

2. オレンジカフェ、本人交流会の開催

3. 認知症予防への取り組み

4. まとめ

当事者主体の認知症カフェ・ 本人交流会に向けての取り組み

- ① 認知症講演会を通して、啓発活動を行う
- ② 認知症地域支援推進員が個別の相談、支援を行った認知症のご本人、ご家族を本人交流会やオレンジカフェにつなげる。
- ③ 実態調査や個別支援で得られたネットワーク(医療機関等)から認知症当事者の方を紹介していただき、本人交流会やオレンジカフェなどにつなげる

認知症への理解を深める・地域で見守る体制作り・相談できる場所を知る

平成30年度

認知症講演会



名古屋市「オレンジドア も〜やっこなごや」
代表の山田真由美さんをお招きしました。

若年認知症の実態調査の中間報告
も行い、多くの関係者で実態を共有し
ました。



一般市民や医療介護専門職など238名の参加

認知症への理解を深める・地域で見守る体制作り・相談できる場所を知る

令和元年度認知症講演会



丹野智文さん、藤田和子さんをお招きしました。

本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽に出かけられる場所作り

講演会の講師とともにいった 本人ミーティング

島根県



山陰どまんなかプロジェクト発足へ…

本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽に出入りできる場所作り

令和2年 山陰どまんなかプロジェクト



安来市・松江市・
鳥取県西部の
当事者の集まり
月1回実施



本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽にかけられる場所作り

パートナー養成講座

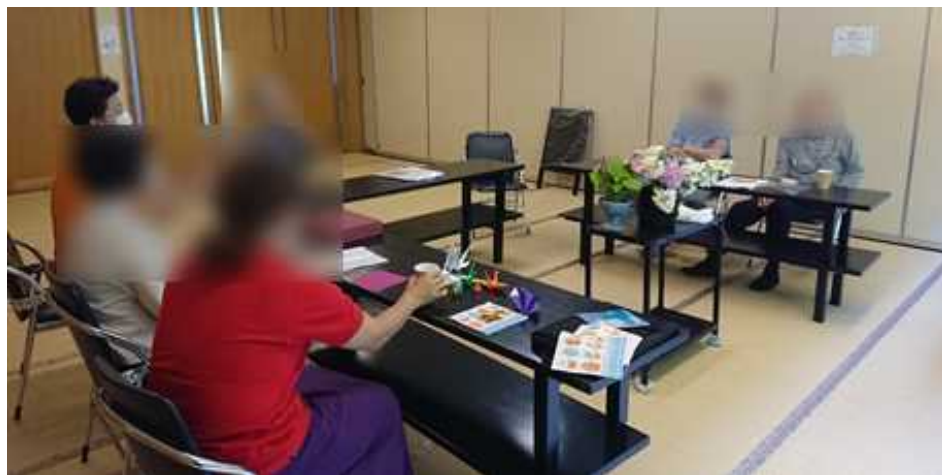
藤田和子さんのパートナーである澤野しのぶさんを講師としてお招きしました。



チームオレンジの登録者に声をかけて・・・

本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽に出入りできる場所作り

令和3年度 オレンジカフェ (認知症カフェ)



当事者と一緒に
作るカフェ

月1回実施



本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽にかけられる場所作り

看板づくりから始めてみる・・・



本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽に出かけられる場所作り

令和3年度にオレンジカフェを利用された方

○ ご本人の拒否があり、介護保険の利用に至っていなかった

➡ 参加し、出かけることに慣れ、小規模多機能の利用へ

○ 一人歩きがあり、その都度家族が付き添うことが毎日続いていた

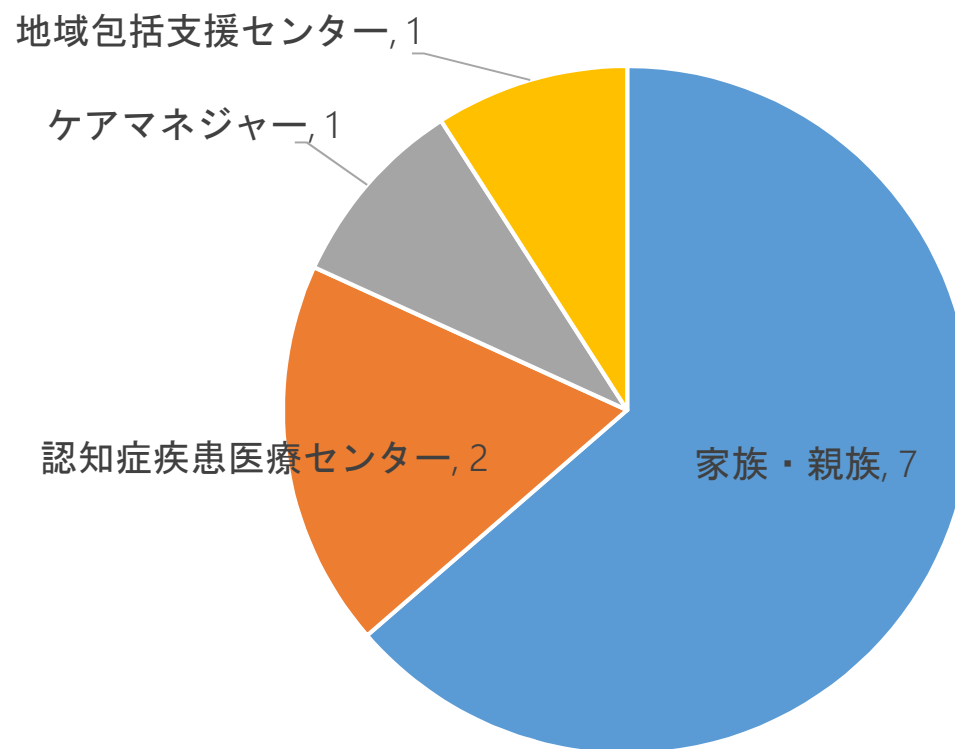
➡ 毎月参加されるようになり、僅かな時間だが家族のレスパイトにご本人「もの忘れするのは自分だけではなく安心した」
「仕事をもう一度したい」

○ 介護保険の認定を受けたが、当事者同士で話がしたい

➡ ご本人「まだ、自分は色々できる。ここに来ると安心できる・楽しい」
家族「出かける場所が一つでも多いことで安心できる」

月1回の集まりが、本人、家族の楽しみへ

オレンジカフェ・本人交流会につながったきっかけ



本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽に出かけられる場所作り



来年は月2回に
できるといいな..

会の持ち方も
一緒に相談します



本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽に出かけられる場所作り

今後、想定されるオレンジカフェ利用者

【認知症の当事者】

認知症の診断は受けたが介護保険の利用にはまだ至らない「空白の期間」での利用

認知症の診断を受け、介護保険サービスの利用も勧められたが、今はまだ利用したくない

物忘れの症状などがみられるが、診断は受けていない。話せる場所が欲しい

介護保険の認定は受けたが、当事者同士でじっくり話せる場が欲しい

介護保険の利用に躊躇する（本人、家族）。家族が疲弊している。

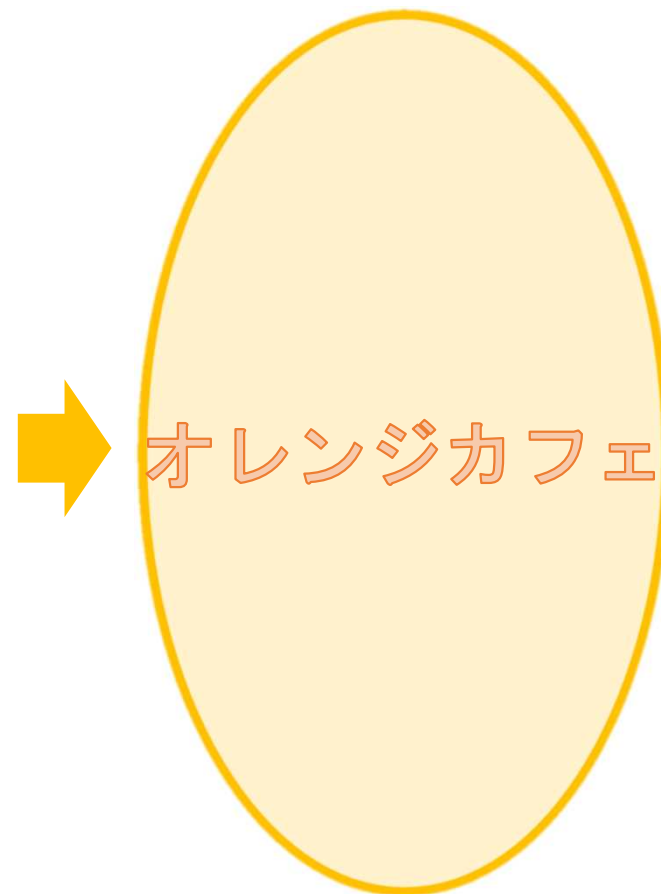
自分と同じ病気を抱える人と話せる機会が欲しい

【認知症の方を介護する家族】

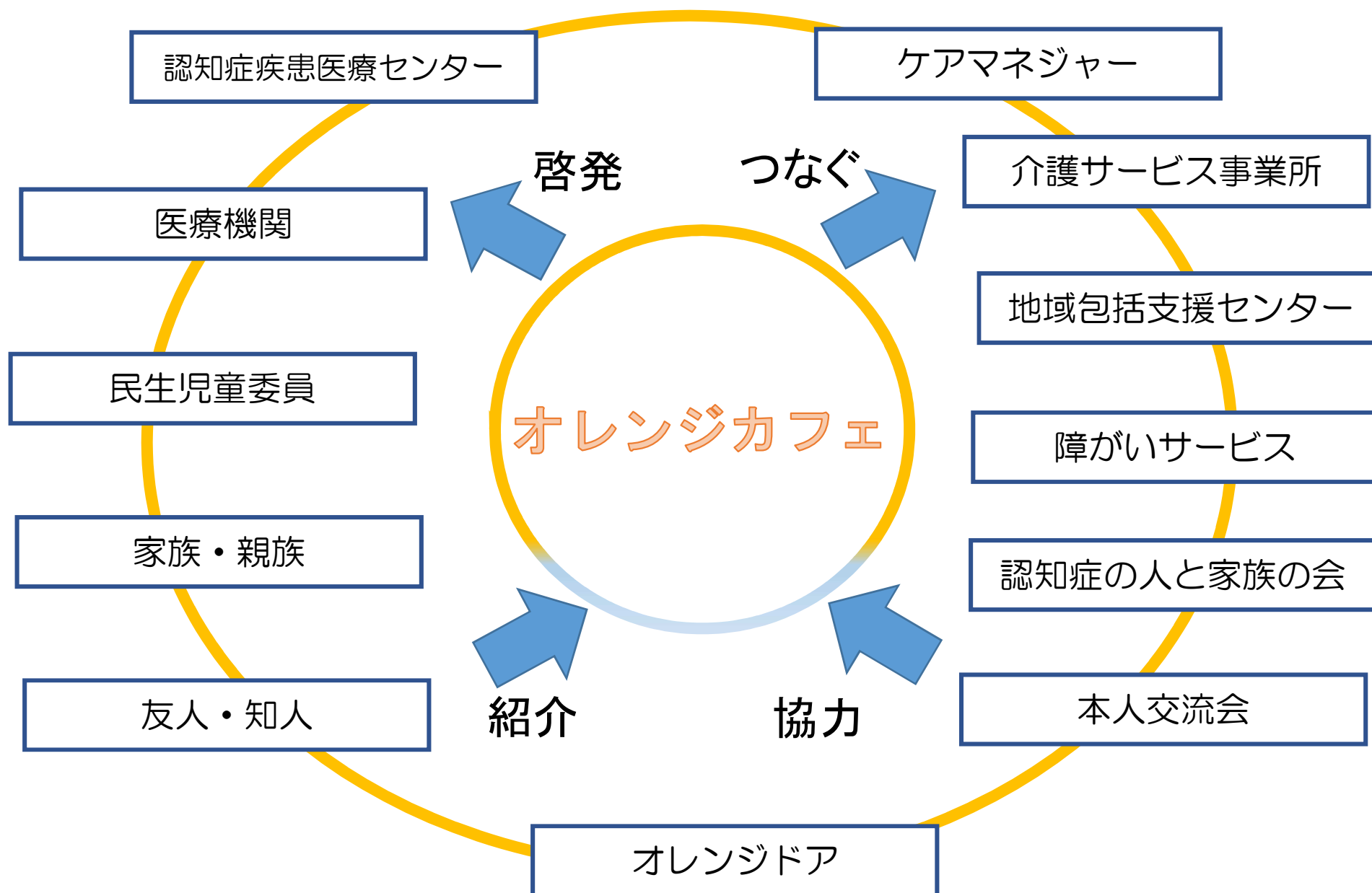
認知症の家族・認知症の家族を介護してきた人

【認知症に関心のある方】

専門職・一般市民



本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽に出入りできる場所作り



本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽に出かけられる場所作り

本人交流会

(やってみたいこと、実現したいことについて話してみよう)



2カ月に1回実施

本人交流会を通して得られた 当事者の希望や思い

- 花を作ることをやってみたい
- 歩くことがしたい、出かけることがしてみたい
- テニスの試合がしたい
- 旅行にはなかなか行けない
- 忘れることが多くて不安
- 毎日この会を開いて欲しい
- 本当は、家族の為働きたい。内職でもいいから・・・
- 家庭での会話は限られている、いろいろな人と出会い交流することは意味がある

本人の希望を実現するには・・・??

本人・家族への相談支援 本人・家族が気軽に出かけられる場所作り

他の地域とのつながり



鳥取県開催の

ZOOMを用いた本人ミーティング

本日のお話

1. 若年性実態調査の取り組み
2. オレンジカフェ、本人交流会の開催
3. **認知症予防への取り組み**
4. まとめ

もの忘れトレーニングプログラム実施による 認知機能への効果検証

- こけないからだ体操を毎週行っている地区の方に対し、毎週もの忘れトレーニングを併せて実施
- 月1回のミニサロン・ミニデイ実施地区を非対象群とし、物忘れトレーニングの効果を検証する



回想問題

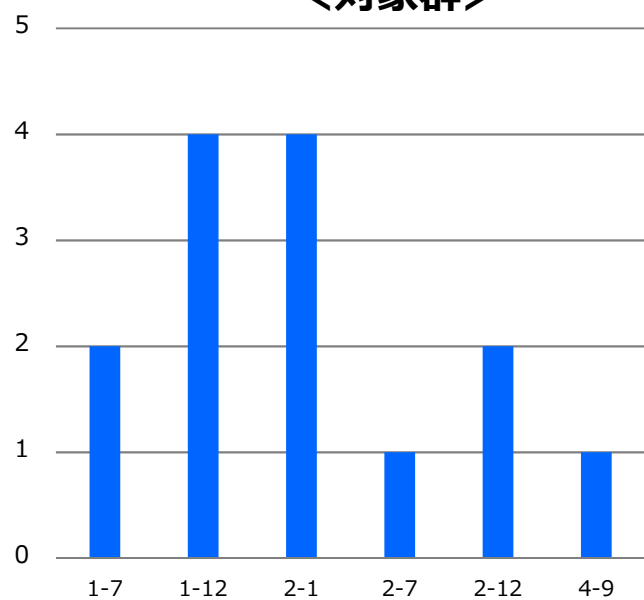
(平成30年度～実施)

認知症予防への取り組み

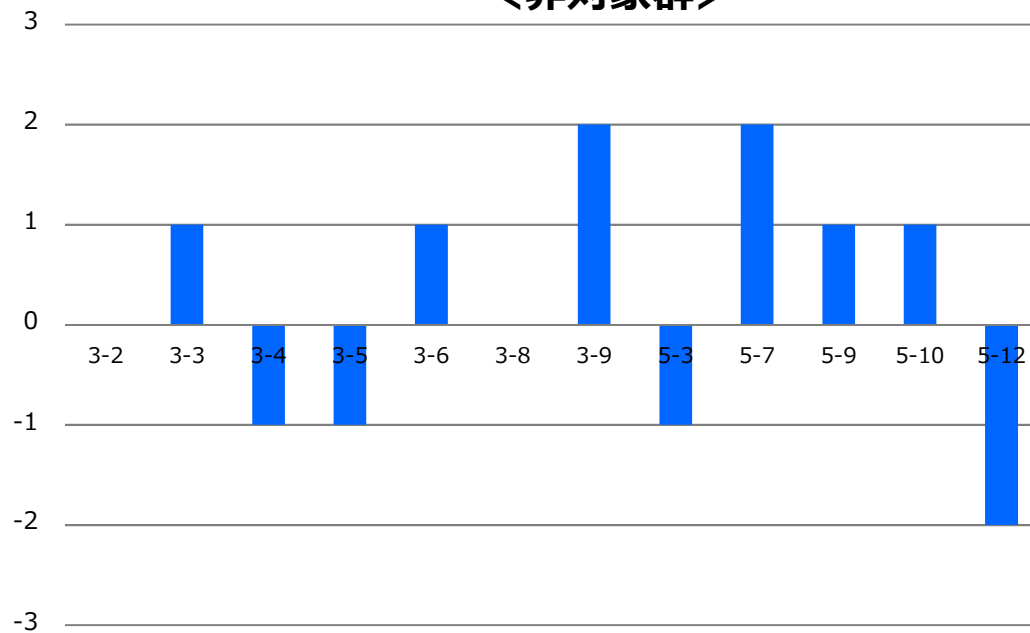


令和2年度の結果

＜対象群＞



＜非対象群＞



本日のお話

1. 若年性実態調査の取り組み
2. オレンジカフェ、本人交流会の開催
3. 認知症予防への取り組み
4. まとめ

認知症地域支援推進員の取組で感じたこと・課題

- 認知症当事者・ご家族への個別支援や実態調査を実施することで、他機関との連携やネットワークができ、オレンジカフェ、本人交流会の取り組みにつながった。
- 認知症予防への取り組みとして、毎週、実施する活動（こけないからだ体操、物忘れトレーニング）は、認知機能低下がみられる方へ対し維持・改善など一定の効果があるのではないかと効果・検証を今後も行っていく。

【今後の課題】

- オレンジカフェにご家族や、専門職、認知症に関心のある方を巻き込んでいくには？
- パートナー養成後の活動展開
- 本人交流会の活動



ご清聴ありがとうございました